

○空き店舗を活用した優良事例

〈わたなベストア（パブリックスペース及び生活介護事業所等）（江別市）〉

■開店の経過

「わたなベストア」は、石狩管内の江別市にある「大麻銀座商店街」に2018年11月25日にオープンした。

以前は、食料品店「わたなベストアー」として営業していたが、閉店後、社会福祉法人ゆうゆうが運営する「わたなベストア」（多機能型スペース）として生まれ変わった。

主な事業活動として、生活介護事業所（よるのにじ）及び放課後等デイサービスセンター（kaede）、まちキッチンやアトリエ等で構成され、地域のコミュニティスペースとしても活用されている。

地域の困りごと×（かける）福祉によって社会課題を解決していくことが出来るという考えの基で、福祉事業所及びパブリックスペース等を一つにした施設とすることとした。建物は地域福祉を推進していく中で、郊外に事業展開するのではなく、地域活性に寄与することによって、お互いに必要なものを補い、発展的な事業展開を進めている。

2階のスペースで、「kaede」を運営している。小学生から高校生まで幅広い年齢の児童を対象に、将来の生活を見据えて、仕事や買い物等の社会経験を積む機会を提供している。

運営に当たっては、江別市内の大学に通う学生アルバイト等、地域の方々を中心に活動の支援している。

〔わたなベストア外観〕



■出店のねらい

わたなベストアのある地域は、市民活動が盛んであり、商店街に隣接する地区センターは地域住民によく利用されているが、その後の交流の場不足や個人の活動実施場所はとても少ない状況となっていた。

そのため、それらを推進できる拠点として、パブリックスペースのある空間、多様なイベントを開催できる、「地域のコミュニティの場」を創り出した。

平成20年代の商店街は、空き店舗がとても目立ち、人通りも閑散としていたが、現在ではレトロな町並みに惹かれ、若手経営者の出店が増加している。なじみのあるものを大切にしつつ、商店街に新しい流れを生み出していきたいという思いから、誰でも利用できる明るく開放感のある空間とした。

元々の創りを活かし、通り抜けできるようになっており、回廊に様々な方の芸術作品の展示を行ったり、商店街への近道、子ども達の通学路として通り抜けしたりなど、少しでも商店を楽しんでもらえるような空間を作りとなっている。

商店街にお買い物に来たお客さんがバスを待つ間の休憩所としても利用され、地域住民のコミュニティスペースとなっている。

〔店舗内の様子〕



■出店による効果

主にパブリックスペースにて、飲食をして楽しめる方や、研修会場として利用される方が多い。利用されている方と、たまたま通りかかった地域住民間において新しい交流が生まれ、商店街に人が賑わう等地域の活性化に繋がっている。

生活介護事業所が商店街の中にあるという立地を活かし、住民と関わりながら障がいのある方が自分のペースで楽しみながら活動出来るというメリットがある。近くの菓子店

「Pâtisserie Ruelle」もあり、お客さんの憩いの空間となっている。

地域住民との繋がりを大事にした活動を行っており、その場所においても利用者さんとお客さんとの交流の場になっている。

わたなベストアの主な実施内容

☆通り抜けできる！ わたなベストリート

☆シェアキッチン

☆生活介護事業所（よるのにじ）

☆放課後等デイサービス（kaede）

☆イベント&ワークショップ

☆アトリエ

多様なイベントを開催するなど、地域のコミュニティスペース



〔ゆうゆうのロゴマーク〕

取材先 ■わたなベストア（生活介護事業所よるのにじ、放課後等デイサービス kaede）
（社会福祉法人ゆうゆう）
江別市大麻東町13番地4（大麻銀座商店街内）
TEL：011-378-4230

■運営の課題・今後の展開

新型コロナウイルス感染症拡大により、パブリックスペースは一時的な閉鎖を余儀なくされた。

今後は、感染予防対策をしながら地域住民に積極的に利用してもらえるように、様々な方法を模索しているところである。

建物内には自由に通り抜けられる「わたなベストリート」があり、気軽に休憩出来る椅子や自由に利用できるトイレがあり、子供からお年寄りまでがふらっと立ち寄れる空間を作っている。人との出会いが、また出会いを呼ぶような偶然が生まれる場所にしたいと思っている。

シェアキッチンやワークスペース等は、無料で利用する事ができるため、今後も幅広い方々に利用してもらい、沢山の人が集う憩いの場として活動していきたい。

定期的なイベントや食事会など、いろいろな事業を考えており、今後も地域の活性化に協力していきたい。



〔わたなベストリート〕